

予算等特別委員会

令和4年度陸前高田市一般会計予算案を審査した予算等特別委員会（及川修一委員長、議長を除く全議員で構成）の質疑内容を要約して一部紹介します。

質 歳入において、法人市民税が前年度より減額となった原因は。

答 復興事業終了とコロナ感染症の影響によるもの。

質 固定資産税増加の理由は。

答 津波浸水区域で減免を受けていた土地・家屋への課税等によるもの。

質 ふるさと納税の今後の取り組みは。

答 1月末現在で約7億4千万円の収入が見込まれる。コロナによる巣ごもり需要の伸びも今以上に期待できないことから、今後はどのような形でふるさと納税が使われているかなど、動画等を使って寄付者と市民をつなぐ取り組みも考えている。三陸花火大会チケット、旅行券など、体験商品となる「コト」商品も返礼

品として増やすことを検討していく。

質 各地区コミュニティに交付される地域交付金は。

答 令和4年度も継続する。

質 コミ協連合会総会で取り組み事例を共有するので、地域の課題解決やコミュニティの形成などに活用してほしい。

質 きょうされん全国大会関連業務委託とは。

答 令和4年9月30日から2日間、障がい者の共同作業所などの全国組織である「きょうされん」の全国大会が本市で開催される。参加者は2千人規模。実行委員会からのおもてなしとして、来場者1人当たり千円のクーポンを配布し、市内で使っていただくための業務委託が主である。

質 野外音楽堂の進捗状況

は。

答 資材の高騰などの理由で遅れていると伺っている。

質 全国植樹祭の予定は。

答 令和5年春、全国から6千人の関係者を迎え、高田松原津波復興祈念公園を中心に開催する。高田松原運動公園なども植樹の会場として提供する予定としている。

質 オートキャンプ場モビリアの今後は。

答 令和5年春に再開できる見込みと県から伺っている。



質 ふるさとタクシー券の助成拡大は。

答 これまでの対象地域（矢作町生田地区・二又地区・雪沢地区、横田町、広田町）を市内全域に拡大する。これま

での対象地域の助成額は変わらないが、拡大地域は市中心部からの距離によってタクシー券を助成する。

質 資格取得支援事業費の増加理由は。

答 新たな取り組みとして、現在介護事業所に勤務している人が介護初任者研修、介護実務者研修などを受けて国家資格を取得する際に補助を行う。

質 佐野地区簡易給水施設の今後は。

答 老朽化に伴い、将来的な水量確保のため、令和4年度に設計業務を委託する。5年度から工事を予定し、将来的に市上水道につながる見込みである。

質 農業研修支援事業費補助金とは。

答 栽培関係の研修は近隣地域で受講できるが、販売など農業経営の研修開催は内陸部など遠方での開催が多いことから、経営改善に資する研修等の経費に補助し、地域農業の経営安定を図っていく。

質 ピーカンナツツ推進事業

の考えは。

答 川原川のシンボルロードの西側、平坦な場所ではないがアップダウンがあつて練習などにはいい環境と思ひ、グラウンドゴルフ協会へ相談している。また、運動公園の東側（第一サッカー場の米崎側）に手を入れて競技が楽しめる環境にしていきたいと考えている。引き続き相談をしながら適切な場所を探す。

質 川原川公園など各種除草業務の委託先は。

答 現在はシルバー人材センターなどをメインに考えているが、将来的には建設業協会など多方面の皆様に管理していただくことも検討する。（担当：伊藤勇一、大和田加代子）

の取り組みは。

答 横田町と米崎町に加え、新たに高田町の平地部に苗木を植樹し、栽培管理の委託を継続する。最適品種の選定に加え、接ぎ木についても検証していく。



質 森林資源航空レーザー計測は。

答 航空レーザー測量により、矢作・横田・気仙町の林地ごとに樹種・樹高・材積などを把握する。レーザー測量の成果について市森林組合等との活用を検討し、今後の林業計画に生かしていく。

質 消防団員の状況は。

答 620人の定員に対し、現在の団員数は574人と定員より大幅に少ない。本市の

人口減少もあるが、人口の3%台は維持できている。団員や地域住民、後援会の皆様と新規の団員を勧誘し、団員数を維持していきたい。



質 高田松原海水浴場の運営は。

答 令和3年から再開。本年は県が設置した復興祈念公園内の管理事務所の一部に観光案内所を設ける。監視塔は令和3年と同様に3基を考えている。

質 小学校のICT教育で力を入れるところは。

答 リモート授業等の充実が第一。子どもたちのタブレット端末の活用の仕方、情報モラルなど、先生の指導の研修を行っていく。令和3年度は

校外でもタブレットを使っての授業を行った。4年度はタブレットの持ち帰りなども行う予定なので、故障等に対応できるように予算を計上している。

質 まちの縁側の運営は。

答 現在、市がアムウェイ財団から無償貸与されている施設であり、観光協会などの入居団体が運営している。駅から本丸公園通りに向かう回遊軸線のスタートの場所であり、新年度から土・日曜日も夕方まで入館できるよう入居団体に話し合いを行っている。



質 元気な水産業振興プロジェクトとは。

答 近年の海洋環境の変化に鑑み、新たな資源管理型漁業

の推進を図り、将来にわたり持続可能な水産業の振興を目指す。具体的には要谷漁港の双六地区でウニとナマコの畜養に漁協と研究しながら取り組む。ウニについては県による指導の下、県内各地で畜養事業をしており、実入り向上に努める。ナマコは昨今、市場での高値もあり引き合いがある。本市でも品質のいいものが獲れることから畜養を進めていく。

質 博物館被災資料修復に向けた国の補助見通しは。

答 確定ではないが、今後5年ほどは継続される見通し。県教委を通じて国に事業継続を働き掛けていく。

質 被災者生活再建支援金（加算支援金）の申請状況は。

答 申請期限は本年4月10日、未申請は19世帯。メールや文書などで手続きをしている。ただくよう連絡を取っている。

質 市立図書館の図書購入は。

答 予算は指定管理委託料のうち400万円計上してい

人権擁護委員を推薦

人権擁護委員の2人が6月30日で任期満了となることに伴い、後任の候補者として次の方を推薦することになりました。

○米崎町

菊池 政雄 氏（74歳）

○小友町

畑山 宏明 氏（56歳）

